

アセスメントポリシーによる学修成果及び教育効果の検証 **アドミッションポリシー**

	資料	結果と解釈
機 関 レ ベ ル	①各種入学選 抜	合格者 42 名、入学者 41 名であった。入学者の評定平均値の平均は 3.85（標準偏差 0.52、最高値 4.8、最低値 2.7）、小論文試験の平均点は 75.02（標準偏差 5.62、最高点 84、最低点 58.5）、面接試験の平均点は 76.46 点（標準偏差 7.30、最高点 91、最低点 62.5）であった。 本年度は、アドミッションポリシーに合致する学生を募集することができたといえる。
	②学生調査	短期大学調査からも、本学が第一志望であった割合が 95%（全国平均 86%）であった。また、本学に進学を決める際に重視した点として、「就職するのに必要な資格が取れる」の項目に 95%が「重視した」「やや重視した」と回答している（全国平均 88%）。専門職として社会で活躍するという高いモチベーションを持った学生が入学していることが伺える。
教 育 課 程 レ ベ ル	①各種入学選抜	本学は単学科となるため、機関レベルと同一となる。
科 目 レ ベ ル	③入学前課題 の確認試験	2021 年度入学生的一般教養テスト結果を 2020 年度（問題は同一）と比較すると、平均点は 26.46 から 27.33 に上昇しており、入学者の一定の学力は維持できていると考えられる。入学時の一般教養テストがその後の成績をすべて予測するものではないが、ある程度の相関はあるため、学力面で平均よりも遅れを取っている学生に対しては、学習上の支援が必要となる可能性もある。

アセスメントポリシーによる学修成果及び教育効果の検証 **カリキュラムポリシー**

	資料	結果と解釈
機 関 レ ベ ル	①退学状況	令和2年度入学生 41名 退学・休学者 0名
	②休学状況	令和3年度入学生 45名 退学者 2名 転籍者 1名 このことから、教育・学生支援の成果が見られる。
	③短期大学生 調査	<p>・学習意欲、学修行動に関する項目</p> <p>「Q11 あなたが受講した授業では、次のようなことはどのくらいありましたか。」の質問項目は、4件法（よくあった、ときどきあった、あまりなかった、まったくなかった）で調査が行われている。</p> <p>「よくあった」及び「ときどきあった」を合算した割合（以後、「あった」と表現）が、全国平均と10ポイント以上乖離しているものについて取り上げる。</p> <p>「学生同士でディスカッションする」の項目については、本学は「あった」と回答した学生の割合が94%（全国平均81%）であった。「授業に遅刻や欠席をした」の項目については、「あった」と回答した学生の割合は20%（全国平均36%）であった。</p> <p>「外国語を使う」の項目については、8%（全国平均42%）であった。また、「授業をつまらなく感じた」の項目に関しては、全国平均と大きな乖離はなかったが、57%（全国平均62%）であった。これらのことから、本学では、学生は授業にまじめに出席しており、また教員もディスカッションを取り入れるなど、工夫した授業が行われている傾向にあると考えられる。</p> <p>一方で、「図書館を利用する」は、「あった」と回答した学生の割合が21%（全国平均39%）であった。「定期的な小テスト」は、「あった」と回答した学生の割合が67%（全国平均78%）であった。</p> <p>「授業で学んだ内容について学外の人と話す」の項目については、25%（全国平均39%）であった。これらは、授業外での学習への取り組みに関わる項目であるが、全国平均よりもやや低い結果になっていることは、今後検討していく必要があると考えられる。授業のコマ数も多く、実習等もあるため、必要なことを効率的にこなしていくだけでも負担が大きく、そのことを考慮した結果として小テストが少なくなっている可能性もある。</p> <p>「教員が提出物に添削やコメントをする」は、「あった」と回答した学生の割合が59%（全国平均77%）であった。提出物に添削やコメントがある方が学生の学びや意欲の向上のために望ましいと考</p>

		<p>えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成長実感に関する項目</li> </ul> <p>「Q19 今の短大に入学して、あなたの能力や知識はどの程度変化（向上）しましたか。」の質問項目は、5 件法（大きく増えた、増えた、変わっていない、減った、大きく減った）で調査が行われている。「大きく増えた」及び「増えた」を合算した割合（以後、「成長実感がある」と表現）が、全国平均と 10 ポイント以上乖離しているものについて取り上げる。</p> <p>「一般的な教養」の項目については、成長実感がある学生の割合は 64%（全国平均 75%）であった。「論理的に考える力」の項目については、成長実感がある学生の割合は、54%（全国平均 65%）であった。「異なる文化や考えを持つ人々を理解する力」については、78%（全国平均 68%）であり、本学が目指す「共生の心」を有した人材の育成が順調に行えていると考えられる。</p>
	④ 学生満足度調査・学習行動調査	
教育課程レベル	⑤ GPA	<p>GPA は平均が 2.38（中央値 2.43、最大値 3.34、最小値 1.41、標準偏差 0.50）、3 以上が 6 名、2.5 以上 3 未満が 12 名、2 以上 2.5 未満 14 名、1.5 以上 2 未満が 8 名、1.5 未満 2 名であり、このことから、学生は「科目内容を修得し、学習成果を獲得している」と判断できる。</p> <p>手厚い学生支援・指導の対象となる 2.2（目指す学習成果の獲得基準）以下の学生は、16 名（38.1%）となっている。昨年の 15% よりも上昇しており、その原因と対策について検討する必要があると考えられる。</p>
	⑥ 単位習得状況	<p>目的に合わせた最適な算出方法を検討しており今回は除外する。</p>
	⑦ カリキュラムマップに基づく学習成果別評価	<p>こども学科の全ての科目は、カリキュラムマップにおいて、教養的学習成果①②または専門的学習成果①～④のいずれか少なくとも一つが身につくものとなっている。</p> <p>教養的学習成果①②においては、科目の成績評価が「良（科目の内容を修得し学習成果を獲得している）」以上となっている割合は、① 89%、② 79%であった。</p>

		<p>専門的学習成果①～④においては、科目の成績評価が「良（科目の内容を修得し学習成果を獲得している）」以上となっている割合は、①88%、②61%、③91%、④64%であった。</p> <p>概ね良好な学習成果が得られているが、専門的学習成果の②と④についてはやや低い値となっており、これらを向上していく必要があると考えられる。</p>
	<p>⑧成績評価</p> <p>⑨欠席状況</p>	<p>⑧目的に合わせた最適な算出方法を検討しており今回は除外する。</p> <p>⑨2年生では全ての科目の出席率が90%を超えている。一方、1年生においては全ての科目において90%前後の出席率である。以上のことから、ほとんどの学生が休むことなく授業に出席している状況が窺える。</p>
科目レベル	⑩授業評価アンケート	<p>令和3年度の通学課程の前期・後期の授業評価アンケートの結果は、各質問項目に対する回答の平均値は、前期・後期を通していずれも4点前後であり、良好な結果であるといえる。また、「質問16 この授業を、マナーを守って受講しましたか。（居眠り、飲食、携帯電話の使用、私語等）」に関しては、前期4.31、後期4.12と、特に高い評価となっており、学習環境としても良好な状態を維持できている。</p> <p>また、「予習・復習」の項目に関しては、前期3.4、後期3.6となっており、全項目中最も低い平均点となっている。ただし、「質問15 この授業で与えられた課題（宿題など）にきちんと取り組みましたか。」に関しては前期4.22、後期4.09となっている。真面目に授業に向き合っているが、自発的な予習・復習というよりも、課題を通しての授業外学習が中心となっていることが読み取れ、今後学生の主体的な学修を促進することは有益であると考えられる。</p>

アセスメントポリシーによる学修成果及び教育効果の検証 **ディプロマポリシー**

ディプロマポリシー		
	資料	結果と解釈
機 関 レ ベ ル	①卒業率 ②学位授与数	卒業生 41 名 (41 名入学) <u>100%</u> (小数点第 2 位四捨五入) 学位授与数 41 教育・学生支援により卒業率は高い水準となっている。
	③就職率 ④専門職率 ⑤進学状況	就職率：100% (就職希望者 39 名中 39 名) 専門職率：82.1% (公務員 7 名、私立保育園・幼稚園・こども園 19 名、福祉施設 6 名、一般企業 7 名から、39 名/39 名) 進学状況：4 年生大学 3 年次編入者 1 名、通信制短期大学科目等履修生 1 名 一般企業就職が例年に比べて多かったことが気になるが、これは④の資格・免許取得ができなかった学生が例年より多かったことと関係していると言える。専門職を中心とした就職状況は良好であったといえる。姫路キャンパスの 2 期生 1 名が姫路市の採用試験に合格したことは特筆すべきことである。
	⑥卒業時アンケート	卒業時の 1 月に実施した 2 年間の大学の進路指導についてアンケートである。進路決定において、「教員からのアドバイス」、「大学の進路ガイダンス」などの大学からの指導ではなく、「実習園の園長・先生」、「大学の先輩」、「先輩からの講演」の評価が高かった。大学教員のアドバイスや進路ガイダンスが進路決定において十分に役に立っていないという学生の評価を厳粛に受け止めなければならないと進路指導委員会では認識している。次年度に向けて大学としても、教員同士の情報共有による学生に対する進路指導の強化や、進路ガイダンスの在り方についても検証し、改善していかなければならない。
	⑦勤務状況調査	卒後 1 年目の 6 月から 8 月にかけて就職先を訪問し、園長・施設長等と面談し、聞き取りを行ったアンケートである。本学の取組を高く評価して頂いているコメントや、期待を込めて建設的に書いていただいたコメントも多くある。本学の特徴である一人一人の学生に対する懇切丁寧な指導を引き続きやっていくことが、本学の信頼をより一層高めることになると考える。ディプロマポリシーについて、特に変更等の必要性を示す明確なデータはない。
	教 育 課	⑧GPA

程 レ ベ ル		学生は「科目内容を修得し、学習成果を獲得している」と判断できる。手厚い学生支援・指導の対象となる 2.2（目指す学習成果の獲得基準）以下の学生は、14名（34.1%）となっている。
	⑨資格・免許 取得状況	保育士資格取得者 36名 幼稚園教諭 36名 卒業者の 87.8%が資格・免許を取得している。
	⑩単位習得状況	目的に合わせた最適な算出方法を検討しており今回は除外する。
	⑪カリキュラムマップに基づく学習成果別評価(参考)	<p>こども学科の全ての科目は、カリキュラムマップにおいて、教養的学習成果①②または専門的学習成果①～④のいずれか少なくとも一つが身につくものとなっている。</p> <p>教養的学習成果①②においては、科目の成績評価が「良（科目の内容を修得し学習成果を獲得している）」以上となっている割合は、①85%、②79%であった。</p> <p>専門的学習成果①～④においては、科目の成績評価が「良（科目の内容を修得し学習成果を獲得している）」以上となっている割合は、専門的学習成果①85%、②86%、③82%、④60%であった。「可…学習成果を最低限満たしている」以下の割合は、①15%、②14%、③18%、④40%であった。</p> <p>2年間の学びの中で、6つすべての学習成果を獲得し、ディプロマポリシーに合致した人材育成が概ね達せられていると判断できる。</p> <p>しかし、専門的学習成果④については、他の項目と比較してやや低い結果となっており、今後の改善の方策を検討する必要があると考えられる。</p>